

祈りの人になろう

今日は6月の第二日曜日ということで、「子どもの日・花の日」です。この記念日は、今から約150年前にアメリカの教会で始まったもので、やがて日本の教会にも伝えられました。この日にはお花で礼拝堂を飾り、子どもたちがお花を持って病院や老人ホーム、消防署などの施設を訪問し、日頃の感謝を伝えることになっています。東京府中教会でも今日、礼拝前に近くのくららホームを訪問してきました。昨年まではコロナのために大人数で中に入るということはできず、玄関で代表の方に私と妻とお花と子どもたちが作ったカードを渡してくるというのが精一杯でしたが、今年は4年ぶりに中に入ってホームの方々と交わって来ることができました。子どもたちを嬉しそうに見るホームの方々のそのまなざしに、「子どもたちには人を温かく元気づけ、笑顔にさせる素敵な賜物が神様から与えられているんだなあ」ということを久しぶりに実感させられました。今日はこうした子どもたちのために皆で祝福を祈る、恵み豊かなひと時を共に過ごして参りましょう。

さて、そんな今日は聖書の中からマタイによる福音書6:9～13をお読みいただきました。イエス様が私たちにお祈りを教えてくださった場面です。イエス様はお弟子さんたちにお祈りについて色々と注意をされた後、実際に「こう祈りなさい」と言ってお祈りを教えてくださったんですね。それが今でも教会に「主の祈り」として伝えられています。私たちも毎回礼拝のたびにこの「主の祈り」を唱えています。聖書に書かれている言葉と少し違いはありますが、こんなお祈りです。

「天にますます我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。国とちからと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。」

イエス様が教えてくださったこのお祈りはとても簡単なものです。人にすごいと思われようと長く難しく祈ったりすることはありません。前半は「神様のお名前が崇められますように」、「神様の御国が来ますように」、「神様の御心がこの地に成りますように」と、神様の事柄が祈り求められます。そして後半で、「普段の食べるものを与えて」、「私たちの罪を赦して」、「私たちを試練に遭わせず、悪から救って」と、私たちのことが祈り求められるのです。

大切なのは、前半においても後半においても、「我らの父よ」、「我らの日用の糧を」、「我らの罪をも」、「我らをこころみにあわせず」と祈られていることです。このお祈りでは「私の」、「私の」と祈られるのではなくて、他人のことがきちんと意識されているんですね。お祈りというのは「私」と「神様」との親しい対話なのですが、そこで私たちはいつも他人のことを意識すべきことを、イエス様はこのお祈りを通して私たちに教えてくれています。

今東京府中教会には神様が教会に与えてくださった宝物として、子どもたちが礼拝に来てくれていますね。CCリーダーの皆さんが子どもたちに神様の愛を伝えるためにいつも一生懸命ご奉仕してくださっていますが、私もCCリーダーの皆さんも、それを見守る教会員お一人お一人も、子どもたちに「自分は神様に愛されている存在だ」ということを知ってほしいと願っています。それだけではありません。教会に来ると、必ずそこではお祈りが捧げられます。お祈りの習慣の中に身を置くことになります。私はこの教会で子どもたちがお祈りする習慣を身に着けてほしいと思いますし、他人のために祈る心を与えられてほしいと願っています。

私が学生の頃、父親が病気で倒れたことがありまして、その時に後輩が私のために祈ってくれたことがありました。とても励まされる思いがしたのを覚えています。聖書の中でイエス様は、「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」と仰っておられますが、まさに祈り合う私たちと一緒にイエス様がいてくださって、支え、励ましてくださっているのを肌で感じる事がで

きました。他人のために祈るといのは、こんなにも神様の愛が伝わってくるんだと実感させられた経験でした。

今日の礼拝の招きの言葉を思います。「あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。喜んでる人は、賛美の歌をうたいなさい。あなたがたの中で病気の方は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してください。だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。」このヤコブの手紙を書いた人も、お互いに他人のために祈り合うお祈りの大きな力を知っていたのでしょう。教会は昔から祈り合うことをとても大切にしてきました。

今の私たちも、神様に愛された神の子として祈りの人になりましょう。自分のためだけでなく、他人のために祈るのです。その中で、私たちは自分が変えられていくのを経験します。神様の愛を伝える器へと、また神様への愛と隣人への愛を身に着けた自分へと変えられていくのを経験します。そして神様の愛が他人にも伝わって、その人をも変えていくのです。神様のもと、互いに愛し合い、祈り合いながら、日々神様の御心に適う自分へと皆で生まれ変わっていきたくと願います。

祈りましょう。 ——以下、祈祷——